

異分野融合の「赤ちゃん学」による発達障害の発達メカニズム究明へ

同志社大学提供
作成日 2016年2月22日
更新日



| | | |
|--|---------------------------------------|---|
| 研究者氏名 こにし ゆくお 小西 行郎 | 所属機関 同志社大学 赤ちゃん学 学研究センター | 関連キーワード(複数可) 発達障害、睡眠-覚醒リズム、自律神経、内分泌、協調運動、対人リズム、ライフログ、介入によるリズム調整 |
| 主な研究テーマ ・発達障害の発達起源を探る研究 ・産官学・異分野融合の「赤ちゃん学」研究の推進 ・「こころとからだ」の発生・発達メカニズムの解明 | | 主な採択課題 ・新学術領域研究(研究領域提案型)「構成論的発達科学」平成24～28年度(配分総額:239,590千円) 課題名「胎児期からのハイリスク児の臨床観察による発達障害理解と包括的診断法構築」 |

① 科研費による研究成果

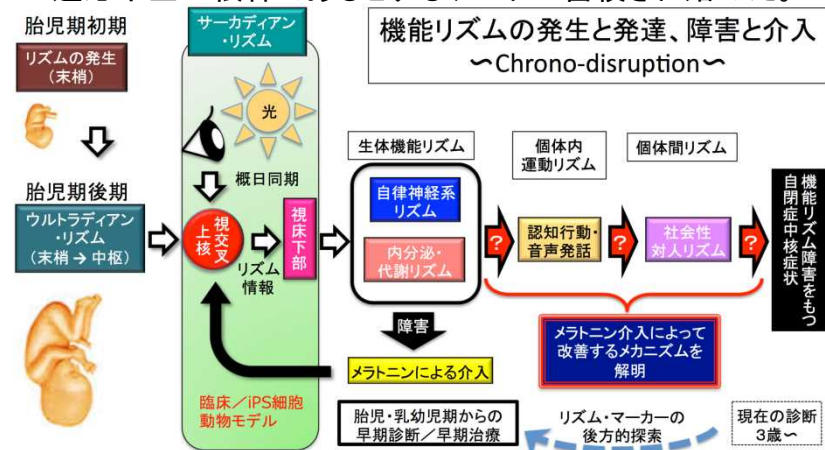
・人の心はいかにして発生し発達するのか？発達障害はなぜ起こるのか？その解明は胎児期にまでたどるべきとの見方が最近急速に強まっている。胎児期からの発達障害メカニズム解明のために、発達障害の「当事者」グループ、ならびにロボット学／情報学からの構成論的アプローチ、医学／心理学／脳科学からの人間科学的アプローチを融合した多角的研究を実施している。



[URL] <http://devsci.isi.imi.i.u-tokyo.ac.jp/>

② 当初予想していなかった意外な展開

・当初は、感覚や運動の「まとめあげ困難」が発達障害の根幹にあると予想していた。しかし、自律神経リズムや睡眠リズムをはじめ、もっとも基本的な生体の『機能リズム』に障害があり、体内や体外への適応不全が根幹であるとするデータが蓄積され始めた。



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・胎児期からはじまる先制医療を行うことができる。
- ・胎児期から生涯にわたるヘルスケア技術の創成ができる。
- ・発達障害の発生・発達メカニズムの解明ができる。